小さなエコの大きな意味と信仰

すべてのいのちを守るために

吉川 まみ
上智大学教授

④

ひとりの大きなエコよりも、皆の小さなエコで守る地球環境

「すべてのいのちを守るための月間」

「すべてのいのちを守るための月間」(9月1日~10月4日)とは、すべてのいのちを守るという思いで環境について考え、行動する、日本のカトリック教会の特別月間です。期間中、月間の趣旨を心に留めながら、共に祈り、共に力を合わせて、それぞれの形でインテグラル(総合的な)・エコロジーを生きるよう励まし合いたいものです。

家庭の日常生活からの地球環境保護

前回、日本の水質汚染の原因の60%が私たちの家庭の生活排水にあることを例に、環境問題の原因の多くが、誰も悪気などない無自覚のライフスタイルにあることをお伝えしました。それは、地球規模の問題でも、日常生活のちょっとした振る舞いが集積した結果としての側面があると知れば、自分でできる小さなエコが地球全体への配慮に直結していると分かるからです。

地球規模の問題の因果関係を、自分自身のライフスタイルとのつながりで理解し始めると、日々の自分のささやかな行為の価値が実感できるようになります。こうした知識は私たちがエコ実践を習慣づけていくとき、大きな力になってくれます。さらに、この知識が日常の一つ一つの振る舞いを丁寧に見つめ、意識すること、省みることへと招いてもくれます。

ファストファッションと地球温暖化

ところで、ファストファッションという言葉をご存じですか。ファストファッションとは、ファストフードと同様、「早い・安い・手軽」で、最新の流行を採り入れながら低価格に抑えた衣料品を、短いサイクルで世界的に大量生産・販売するファッションブランドやその業態のことです。低価格で品揃えを目まぐるしく変えることで、消費者に衣服の頻繁な買い替えと廃棄を促すことから、環境にも大きな負荷を与えています。この業態が、現代の私たちの衣生活の大部分を占めるようになっているのです。

2018年の国連気候変動枠組み条約締約国会議(COP24)で「ファッション業界気候行動憲章」が発表されました。これは、ファッション業界、特にファストファッション業界が、その生産活動で世界全体の二酸化炭素排出総量の10%以上を排出し、原料調達のために森林資源に大きな負荷を与えていることなどに対して、気候変動対策に積極的に取り組むことを示したものです。

ブルージーンズが大地と弱者に与えるダメージ

衣服はもはや大量消費・大量廃棄の使い捨てアイテム。実際、日本人1人当たり、年平均18枚の衣服を購入する一方、手放す服は年間12枚。日本全体の衣類の廃棄量は年間約100万トン、枚数換算で年間33億着もの衣類が廃棄されています。世界全体では、毎年製造された衣類の85%がリサイクルされずにごみ処分。これは、毎秒、トラック1台分の衣類が焼却あるいは埋め立て処分されていることになります。

一方、ファストファッションの大量生産に目を向けてみると、例えばファストファッションのブルージーンズ1本の製作に必要な水の量は約7500リットル。これは平均的な人が7年かけて飲む水の量に相当します。安価に大量生産・販売して利益を上げねばならないファストファッションは、生産コスト削減のために通常その生産拠点は開発途上国に置かれます。私たちが消費するブルージーンズのために途上国の水源を干上がらせ、染料が河川を汚染するなどの問題も発生しています。マイクロプラスチックを大量に扱い、大量のコットン(綿花)も必要としますから、大規模農業を促し土壌劣化も招きます。

先進諸国の私たちにとってカッコ良く着心地の良い衣類を安価に楽しめるようになったのは、経済的に困窮している人々と途上国の自然資源の大きな負荷によるものだと言えるのです。

日常生活とささやかな振る舞いの中にあるエコの基盤

このような状況に私たちはどんなエコ実践ができるでしょうか?既に国内外でエシカル(倫理的)ファッションなどの取り組みが展開されています。が、これらはまた別の機会にご紹介するとして、衣服をはじめとする日常の大量消費に対するエコ実践について、環境教育の視点から最後にお話しします。

平均年間18枚という衣服の購入枚数を、例えば10枚減らすのは簡単なことではありません。「なぜ私だけがガマンするの?」「これが本当に地球を救うの?」といった気持ちが湧いてきて、結局はエコ実践そのものから離れてしまいます。ですが、どうか、環境教育は突然10枚減らすことや、ジーンズを買わないことなど勧めるものではないと知ってください。理想的なエコは難しくても購入枚数を1枚だけ減らすエコならきっとできるでしょう。そして、そんな人が10人に増えていったらどうでしょう。

環境教育で大切なことは、ささやかさへの批判や問題に向きがちなまなざしを、大海の一滴の意味、小さなエコができた自分の大きな価値を評価し感謝する、そんなまなざしへの転換です。もちろん、素晴らしいことに取り組める人々に皆で敬意を払い、応援したいものですが、皆が褒められることを目指す必要はどこにもありません。エコ実践の核心とは、日常生活の中にある実にささやかな振る舞いの積み重ね。そんな人々が互いにつながることで力になる全体で一つのことだからです。

(カット=安藤みちこ)